

採掘坑道

メインのトンネルから枝分かれした水平や斜めの坑道は、鉱夫たちが銀の鉱脈を掘り当てるために掘ったもので、そのほとんどが山を斜めに貫いている。坑道の中には長さが数十メートルもあるものもあり、陥没の危険があるにもかかわらず、特に豊富な鉱脈を奥深くまで追ったことを示している。一方、メインのトンネルからほとんど離れていないものもある。これらの穴は特定の鉱脈の質を評価するために掘られ、鉱脈が期待外れとわかった時点で放棄された可能性が高い。

坑道内の配置は行き当たりばったりに見えるかもしれないが、坑道は非常に体系的に掘られていた。どの鉱脈を追うべきかを定める鉱夫たちは、鉱脈周辺の岩石の一貫性や色から鉱脈の質を判断できる熟練の専門家だった。ノミとハンマーだけで山の斜面を掘るのは非常に時間がかかるため、彼らはすぐに生産性の低い鉱脈から離れ、次の鉱脈へと移っていった。

とはいえ、鉱夫の仕事はどんなに熟練していても、危険で不快なものだった。埃っぽい坑道で、時には注意力を保つためにクエン酸を含む梅干しの肉を詰めた布製のマスクを着けた労働者たちは、狭い裂け目に入り込み、果てしない穴の中から鉱石のかけらを取り出した。しかも、貝殻で作られたオイルランプのほのかな明かりの中で。たった 10 歳の子どもたちも鉱山で働き、30

歳まで生きた鉦夫は大きな祝福をされた。